

文久四年

〔外表紙〕  
鑄錢御用留

〔内表紙〕

文久四年

鑄錢御用留

御勝手方  
子正月 御勘定所

(縦23.7cm、横16.0cm)

〔鑄錢吹立場所〕 絵図貼付…口絵参照

亥十一月八日

一、〔子八月廿三日隠居〕  
(後筆)

右は鑄錢御吹立御用掛り被 仰付候事、

同十一日

一、〔子八月廿三日隠居〕  
(後筆)

右は鑄錢御用掛り被 仰付候事、

亥十二月七日

御勘定奉行中え

鴨志田傳五郎

肥田新五左衛門

一、〔十二月十四日御役御免小普請組〕  
(後筆)

右は鑄錢御用掛り被 仰付候条、其旨可被相達候事、

子正月十九日

一、〔子九月六日御役御免慎小普請〕  
(後筆)

右は鑄錢御用掛り被 仰付候事、

鑄錢御用懸姓名

〔子五月廿八日隠居慎〕  
(後筆)

〔子八月四日寄合指引転〕  
(後筆)

〔子八月 御馬廻頭転〕  
(後筆)

〔御徒頭え転役〕  
(後筆)

〔子月 御先手物頭転役〕  
(後筆)

〔子月 死去〕  
(後筆)

〔子月 御先手物頭転〕  
(後筆)

〔子六月四日御勘定奉行転〕  
(後筆)

杉山伊三郎  
御勝手方手代  
津田蔵吉

加藤木賞三

興津蔵人

御側御用人  
美濃部又五郎

御用人  
酒泉新三郎

御目付  
立原朴二郎

御小姓頭取  
大場大二郎

同  
原滋衛門

同目付  
生熊治衛門

奥御右筆頭取  
亀井津衛門

〔子〕月御馬廻転役

〔後筆〕  
〔子〕八月廿三日転役

〔後筆〕  
〔丑〕月 御国御馬廻転

〔後筆〕  
〔子〕八月廿七日大御番え転

〔後筆〕  
〔御勝手掛吟味役二成ル〕

〔後筆〕  
〔子〕八月 御馬廻りえ転役

〔後筆〕  
〔子〕八月 小十人組え転

〔後筆〕  
〔子〕三月十三日番付列被召出小梅鑄錢掛り  
〔被仰付御勘定奉行指引二成ル、子〕十月十  
〔一日〕大学頭様御付吟味役 被仰付候

〔後筆〕  
〔子〕九月慎小普請被 仰付候

〔後筆〕  
〔丑〕九月日被仰付

同平

郡司孝介

御勝手掛吟味役

乾又八郎

同

山方丑次郎

小十人目付組頭

大竹勘次郎

同平

堀江三次郎

同

加藤英男

同

吉見喜代八郎

同

篠善吉

倉部欽作

御小姓頭取

古川吉郎衛門

荻庄左衛門

定所へ得差図候処、其筋之者金座役所え差出、別紙兩人之もの

致対談可然旨挨拶有之、仍ては御屋形より如何様之身分之者被

指出候哉申聞二付、勘定奉行下役目見以下、熨斗目着用之もの

差出及御懸合旨相答置候処、御国表よりハ旧冬中御郡手代西野

総平為指登周旋罷在、御用弁之もの二付此度金座え加藤木賞三

一同御差出相成候条、其旨可被相達候、就ては諸事申合、兩人

二て幾日頃金座え出向候哉、先方折合も有之儀二付否早々可被

申出候、

但、金座え罷越候節ハ肩衣着用可然旨、御勘定組頭より

差図有之候間、其旨相心得候様、

金座掛り

吟味方改役

山田虎次郎

御勘定

根立助七郎

両三日之内其筋役人中座方へ罷出候ても差支無之候事、

右之通り正月十九日御達相成候二付、即日西野総平方へも写相

添相達申候、

〔後筆・朱書〕

右御達相成候二付ては廿一二日頃迄二兩人罷出可申之処、十九

日夜戌上刻より之出火、諸役所焼失之御混雜ニて延引二相成、廿

六日四ツ時頃出宅ニて一侍一僕宛召連、本町宅町目金座役所へ罷

御勘定奉行中え

於江水小銭吹立之儀御願済相成候二付てハ、座方御取建等御勘

出候処、当日根立助七郎義不詰合、山田虎次郎義も御殿より退出  
(脱アリカ)  
懸ケ之由にて八ツ時七分頃会申候詰合之御勘定

此度小銭吹立御願濟二付、小梅御屋敷内え鑄銭座御取立之儀御達二相成候付てハ御取締旁之為、右地所え傍示杭相立候方可然奉存候、右御了簡濟二も相成候ハ、公辺其御筋え御届相成候様致度奉存候、此段申上候、以上、

正月 廿八日出ス

御勘定奉行共

二月朔日

一、鑄銭座地所引渡二付、今日五ツ時揃にて小梅え相詰候様、懸り御側御用人美濃部又五郎方より申来候付、同所え出席致候事、

但、御家老衆御勤左之通罷越候事、

興津藏人殿

美濃部又五郎方

生熊治衛門

大場大二郎

新家忠五衛門

右之通罷越、尤地所受取候後、杉浦羔次郎殿・尾崎豊後殿も御出二相成候事、

肥田新五左衛門

亀井津衛門

野村彝之介

郡司孝介

原田誠之介

日置熊次郎

武石傳之允

篠 善吉

加藤木賞三

西野総平

津田藏吉

台子之間御坊主

式人

御普請方手代

壹人

同心大工 壹人

押 壹人

御抱中人 貳人

此度小梅御屋敷内え鑄錢座吹立地所御渡二相成候処、右は二  
タ空之積ニて御渡二相成候処、三空相建不申候ては差支候趣ニ  
付てハ、東之方え今二十間開込、都合六拾五間ニ奥行ハ是迄之  
並ニ相渡り候様仕度御了簡相済候ハ、御目付方へ御達可被下  
候、此段申上候、以上

二月 七日ニ出ス

御勘定奉行共

御勘定奉行中え御達書取

御目付中え相達候書付之趣

此度小錢吹立御願済相成候付ては、小梅御屋敷御米蔵並南堀通  
り御鷹場内え長延四拾五間巾式拾間之開出来、鑄錢座御取建之  
儀 尊慮伺相済候処、右御普請之儀ハ御用達大崎由兵衛と申も  
のへ為相任候条、木品入元見届ニ不及、全く地所引渡、右普請  
中御場所為取締下両役之内ニて見廻為相勤候様宜被取扱候、

小梅鑄錢御場所通用口等之義、別紙絵図面相添伺立候へハ、不  
日御判談ニは可相成奉存候得共、右普請取懸り候ニも是迄之通  
用御門通行ニては旁不便利ニ付、右新門出来候迄之内暫之内、  
右御用向之ものニ限り百姓傳次郎於裏御門通用相成候様奉願度  
旨、右御用達共より申立御座候間、早速御了簡相成候様奉存

候、以上

二月

御勘定奉行共

付札

本文御了簡済ニ相成候ハ、同所御目付方へ御達ニて朝夕  
明立等之取締御座候様、尚又同所御場懸り等えも御達相  
成候様奉存候事、

一、此度鑄錢御場所小梅御屋敷内え御取建ニ相成候付てハ、普請  
方等急速取初立度旨、右御用達共より願出有之候件々之内、差  
懸りは迄有形之御板屏破損之分も有之候間、右御渡御地処丈ケ  
取崩鑄立中為取締、別紙絵図面之通欄屏ニ補理常輪通用門壺ケ  
所并諸色持運始掃除旁之通用口壺ケ所為御済ニ相成候様、并源  
兵衛堀筑留際え右御用品物揚場壺ケ所、右は 公迎其筋え御達  
ニ相成候様奉願度旨申立御座候、早速為御済ニ相成候様奉存候、  
一、元瓦師え御貸長屋之儀ハ幸ひ種錢出来之場所拝借仕度旨、右  
之所当座拝借相済候様仕度 御了簡相済候ハ、已前之懸り并  
御目付方え御達仕度奉存候、以上

二月

御勘定奉行共

付札

本文物揚場其筋え御達相成候付てハ既ニ大炮御製造ニ付

文久四年

隅田川筋え物揚場御出来之御手續ヲ以御達相成可然哉奉  
存候事、

宿所書

南新堀卷丁目久次郎地借  
願人 大崎由兵衛

下谷八軒丁太田新八郎地面内  
右身元請人 津野四郎兵衛

糀町三軒谷天野喜三郎地面内  
右添願人 古川嘉兵衛

千住在五平新田名主  
同 金子左内

浅草聖天町新兵衛地借  
工夫人 山本久作

右之通御座候、以上  
文久四子正月 大崎由兵衛

鑄錢  
御掛り様

乍恐以書付奉願上候

一、此度鑄錢御吹立御用御勝手方御勘定所御用達被 仰付難有仕

合奉存候、何卒銘々え御印之御挑灯高張弓張式ツ宛拝借被下置  
候様此段奉願上候、以上

文久四子  
正月

大崎由兵衛  
津野四郎兵衛  
古川嘉兵衛  
金子左内  
山本久作

鑄錢御掛り  
御役人衆中様

奉伺上候

一、御場所物揚場室住杭

水戸殿鑄錢御用物揚場

右之通相認度、尤御書形之儀は 御屋形様ニて為御書被下候  
哉、私共方ニて為書可申哉、此段奉伺上候、

一、出方之者え腰札之儀私共之印ニて相渡し可申候哉、尤御請負  
ニて私共より召遣候職人共之義ニ付、御屋形様之御印ニてハ恐  
多奉存候間、是又奉伺上候、

一、同人え非常之節馳付之ため挑灯相渡し度、是は 御屋形様御  
場所万々一非常馳付可仕候義ニ付、御印ヲ付度奉存候間、左ニ  
奉伺上候、

\*(後筆・朱書)



手代役之者え相渡候は如此手丸二  
仕、裏えは銘々之小印相付可申候、

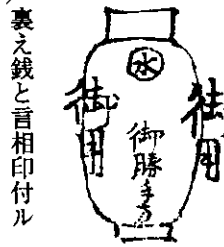


小者諸出方え相渡候ハ並弓張、裏え  
ハ銘々之小印ヲ付可申候、

\*(後筆・朱書)

本文手丸并俵形共丸水にてハ相渡兼候付、御用文字挑灯にて数四

拾張、俵形にて裏え錢と言合印付御拾二成ル、



裏え錢と言相印付ル

右之通二拵相渡申度、此段奉伺上候、

一、銑鉄之儀南部様え御引合被成下候様奉願上候、

一、吹炭之儀山方え引合仕度候間、御印拝借被仰付候様奉願上候、

右之ヶ条奉伺上候、以上

文久四子

正月

大崎由兵衛

津野四郎兵衛

御屋形様御役人衆中様

覚

一、水戸表鑄錢場所ハ常州那珂郡湊村内字龍ノ口と申所え取建候  
積、鉄ハ海岸砂鉄を製用、

一、公儀御益納ハ試吹之上ならてハ損益共睨と見詰相立兼候間、  
追て取調申出候積、

一、龍ノ口座之儀は御指図受、此節より作事取懸り、尤鑄錢職人  
と申も無之候得共、領内鑄物師共又は貧民共呼上、古来より相  
伝候鑄物用達も有之候間、右ヲ師ニ致追々職方為見習候心得ニ  
候間、暫之内暫古吹為致其内ニハ手馴可申、弥人数相揃吹方行  
届候度ニ至、其段金座え相届取始候積、

一、明和度鑄錢ハ久慈郡太田村小沢九郎兵衛と申者願主にて明和  
五年五月御沙汰砂鉄小錢一ヶ年拾万貫文ツ、七ヶ年之御濟口  
ニ相見、同年中暫古吹致、翌丑年より吹初辰年迄四年相統致候  
様相見、尤吹立中為御任にて金座等之出役ハ無之候、

一、鑄錢引受として明和度ハ願主九郎兵衛金座え罷出候処、此度  
ハ於 水戸殿被相願候事にて役筋之者取扱候付、金座対談ハ其  
筋役向之者差出候積、右にて御差支有之間敷哉、

古川嘉兵衛

金子左内

山本久作

以上

右之通金座役所え賞三・総平より懸合書相廻置候処、左之通御城付え御挨拶申来候事、

御書面之廉々差支無之候、

四ヶ条目之内金座人出役之儀、此度ハ御金改役所役人壹人・金座人壹人・下役并手代壹人宛、追て被差遣候積有之候、

一、明和度御吹立之銭は、裏二久ノ文字鑄出し再吹之節は久二ノ文字鑄出し有之候間、此度も裏文字は有之可然候間、御治定之上は其段御申立被成候様存候、

一、明和度・安永度吹方伝達書写為突合御差出有之候様存候事、

小梅鑄銭場普請明後廿三日早朝より地均ニ取掛り候二付、御目附方より出役立合有之候様、右御目付方へ御断致度奉存候、

以上

二月 廿一日出ス

御勘定奉行共

小梅鑄銭場普請明後廿三日早朝より地均ニ取掛り候二付、御場掛りへも御達相成候様奉存候、以上

二月 廿一日出ス

御勘定奉行共

小梅鑄銭場御取建ニ付裏御門通用之義兼て伺置候処、未タ何等御沙汰無之候ニ付ては、右相済候迄之内、御用達由兵衛等始、総て諸職人等日々表御門通用之義御目付方へ御断相成候様奉存候、以上

二月 廿一日出ス

御勘定奉行共

御勘定所え

水戸殿  
御城附

水戸殿え小銭吹立之儀願済相成候ニ付てハ、明和度鑄銭伝達書写為突合差出候様御達ニ付、則別冊之通差出申候、

子三月

(丁抜けカ)  
相成候様仕度奉存候、以上

二月

御役名

小梅御屋敷へ鑄銭場御取建ニ付、新御門出来候迄之内、右御用筋之もの出入・諸運送等ニ限り、百姓傳次郎前通り・裏御門通用之義為御済相成候ニ付ては、右之段早速御目付方へ御達相成候様仕度奉存候、以上

三月 十日

御役名

乍恐以書附奉申上候

今般鑄錢吹立方之儀大崎由兵衛外四人へ諸事願之通被 仰付候  
処、由兵衛と不折合之趣被為及 御聞蒙 御尋御利解之趣奉恐  
入候、然ル処私儀は乍恐元來職人之儀、由兵衛外四人之儀は職  
人共え為相任吹立方いたし候儀ニ付、兼て約定書も有之候間、  
逸々細々一同え相談之上可取計は勿論之事ニ御座候処、無其儀  
一己之了簡を以取計候様子ニ相見え候ニ付、兎角折合方も不宜  
儀ニ御座候、尤外四人之者共ハ職分ニ無御座候間、何事も職人  
共之申条ニ為相任仕方立仕候事ニ御座候、乍併是は其者の了簡  
次第二付、其儀を兎角申候義ニハ決て無御座候、私儀は前奉申  
上候通吹立方之儀ニ付てハ不限何品ニ、乍恐未熟ニハ御座候へ  
共、丹練も仕相試罷在候儀ニ御座候、依之今般御増地所も拝借  
被 仰付候付、先ツ空取建疊形と申を以吹立方仕居候内、反射  
竈取建右ニて吹立方仕候は格別出来高も相嵩諸入用人歩迄も掛  
り相減し都合宜御座候、右申上候も余之儀ニハ無御座候得共、  
銑鉄之直段当春迄は<sup>〔兩〕</sup>当ニ付十三四貫目位之相場ニ御座候処、此  
節は直段格外ニ引上ケ兩ニ九貫目位之相場ニ相成候間、旁以反  
射竈ニて湯涌し疊形を以鑄立方仕候<sup>〔ハ脱カ〕</sup>ねハ行届不申候、尤別  
ニ空<sup>〔壁〕</sup>相立銘々相励出精仕、御益奉上納度旨申合之上奉願上候  
処、其通り可仕旨兼て 御沙汰も御座候付何卒右願之通り被  
仰付被下置候様奉願上候、然ル上は各々励方も宜可有御座は勿

論之儀と奉存候、由兵衛存意ニてハ都て一ト円メニ入会吹立方  
いたし候心得之様子ニ付、自然不折合ニ相成候事ニ奉存候間、  
銘々之見込存意之通り吹立方仕候様ニ被仰付被下置候様奉願上  
候、以上

三月七日

山本久作印

御勘定所  
御役人衆中様

右之通り申立之趣ハ有之候へ共、由兵衛一己之了簡ヲ以取計候  
儀ニハ有之間敷、由兵衛・四郎兵衛・左内は合駄致居候様子相  
見へ元より職分・職外ヲ分ケ相済候義ニは無之、諸事五人一統  
致し候願済ニ付、最初願済之通り相心得、何れニも熟知致し  
早々取建候様相達、子三月十三日此書付久作え差戻候事、

〔加筆〕

別紙御用具之内弓張挑  
灯之義は数多ニ相見  
候間、老入え式張敷  
三張位之積リヲ以取  
調今一応可被申出事、

御勝手方御用達

大崎由兵衛

津野四郎兵衛

古川嘉兵衛

金子左内

山本久作



〔加筆〕  
〔覺〕此面不用二成ル

一、御用高張挑灯五張

一、同弓張挑灯五拾張 内四拾ハ錢ノ字合印付

一、御繪府五本

一、御船印式本

五本相濟候事

右此度小梅鑄錢座御用達被 仰付御用具御渡之儀伺相濟候間、  
焼印相濟候様御目付方え御断可被下候、以上

三月 十七日

御勘定奉行共

南御郡方手代  
西野総平

右此度鑄錢座御取建二付役所え申合候御用、尚又金座等え間合  
候義有之候二付、昨年十二月中罷登、春日町大黒屋長衛門方え  
止宿仕居候処、御用相濟今朝出立罷下申候、此段申上候、以上  
三月廿一日  
御勘定奉行共

御勘定所え

水戸殿

御城付

水戸殿え小錢吹立之義願濟二相成候二付ては、明和度吹立候節  
錢裏文字有之候二付、此度も江戸・水戸両座共ニ水戸之戸ノ字

之積片仮名ニてトノ文字鑄出申候、依て図面相添、此段御届旁  
可及御達旨役人共申候、

〔後筆・朱書〕

子三月 廿八日出ス

〔後筆・朱書〕

\*

〔付札〕御書面之趣致承知候、鑄錢裏文字トノ字鑄出相成候共差支無  
之候、尤右之趣御老中方え被御申立置候方と存候間、遣候図面ニ留  
置、此段及御挨拶候、

子四月 四日 筋より廻ル

御勘定所

乍恐以書付奉願上候

一、今般於 御館様海防守備御警衛非常為御手当御軍艦御製造并  
御上洛其外御用途被為相嵩、依て鉄沓文錢御鑄立被為遊候二  
付、古川嘉兵衛え被 仰付候処、同人義御免相願候間、右持分  
跡私共え御引渡被下置、右吹立方御用之義被 仰付被下置度奉  
願上候、尤右願之通仰付被下置候ハ、先々願人通り之振合ニ  
准シ、一ト爐二付沓ケ年金五百両宛上納仕度奉存、地所御引渡  
ニ相成候ハ、御場所御普請、形場・吹場・地金・炭・形砂等  
私共方ニて相賄 御館様之御雜費一切相掛申間鋪候間、何卒出  
格之以御仁恵右願之通被 仰付被成下置様ニ偏ニ奉願上候、以  
上

文久四年

子三月

願人

町田昇平

同断

伊藤吉五郎

御屋形様

御役人衆中様

進候処、右通用門其外取建方之儀向々え相達候間、其段相心得御勘定奉行・御作事奉行え可談旨、板倉周防守殿より御達有之候二付てハ心得方委細御指図承知被致度、此段及御問合候様役人共申候、

子三月

廿八日出ス

三月晦日

水戸殿於小梅下屋敷小錢吹立之儀願相済小屋取建候二付てハ、表構柵<sup>(塀)</sup>二補理通用門壹ヶ所諸品運送口一ヶ所并源兵衛堀築留際え物揚場一ヶ所出来、同所左右え<sup>(塀)</sup>杭相建候積り有之候、右之趣其筋え御断相廻候様被致度、依之別紙絵図相添、此段及御達候様被申付候、

子三月

御付札

書面小錢吹立中通用門其外取建方之儀向々え相達候間、其段可申上候、尤御勘定奉行・御作事奉行可談候、

御勘定所  
御作事奉行 へ

水戸殿  
御城附

水戸殿於小梅下屋鋪小錢吹立之儀願相済小屋取建候二付てハ、表構柵<sup>(塀)</sup>二補理通用門壹ヶ所諸品運送口一ヶ所并源兵衛堀築留際え物揚場一ヶ所出来、同所左右え<sup>(塀)</sup>杭被相建度旨過日被致遣

小梅鑄錢座通用口等二ヶ所并揚場一ヶ所取建之儀二付、過日別紙之通及御達候処、御作事奉行より御城付え申聞ニハ来月四日雨天二無之候ハ、四ツ時小梅右御場所え支配之者見分指出候旨御城付迄打合有之候段申出有之候事、

乍恐以書付奉内願候

一、今般於 御屋形様鑄錢御吹立被遊候二付 御用達被 仰付候願人共之内より 御入用筋莫太ニ相懸り候二付、何分難行届候間、私え金方頼入も有之、於私共も内願筋之儀も有之候間、丹誠工風仕金方も付置候処相違無御座候、就てハ奉願上候も奉恐入候得共、内願筋之儀御執成被下置候は、為冥加鑄錢御吹立御用筋之外、金三千両奉献納候間、何卒此段幾重ニも御執成被下置候様奉願上候、以上

浅艸寺地中正智院地内

佐々木新吾

元治元子年四月

御勘定所

御役人衆中様

子四月朔日

御勘定奉行中え

別紙新吾と申もの願之趣無余義相聞候へハ願之通取受、役所用  
達申付候条宜可被取扱事、

右二付同日新吾え可相達之處、居所等相分り兼候付、大場大二  
郎より先方へ申合呉候様相頼、二日罷出候付、左之通於大廊下  
三之間申渡候事、

(加筆)  
〔末三葉目ニあり、〕

小梅鑄錢座二付物揚場地所来ル四日公辺より御引渡ニ付てハ、  
大炮御製造物揚場地所御引渡之節之通り御普請方下奉行等罷  
越候付、御踏込御座敷へ引通候間、御鷹掛・御小姓頭取中え御  
達之事、

四月二日

小梅鑄錢座物揚場地所来ル四日 公辺より御引渡ニ付ては請取

方等之儀、大炮御製造物揚場地所請取方之通り取扱候様、其外  
委細は御勝手方問合候様御指支無之様、御普請奉行中え御達之  
事、

四月二日

小梅鑄錢座物揚場地所、明後四日 公辺より御引渡ニ付てハ大  
炮御製造物揚場地所御引渡之節之通心得候様、御目付中え御達  
之事、

四月二日

御勘定所え

水戸殿  
御城付

水戸殿於小梅下屋鋪小錢吹立之義願相済、小屋取建候ニ付ては  
表構欄塀ニ補理通用門壹ヶ所諸品運送口壹ヶ所并源兵衛堀築留  
際え物揚場壹ヶ所出来、同所左右え勝示杭被相建度旨過日被致  
進達候処、右通用門其外取建方之義向々え相達候間、其段相心  
得御勘定奉行・御作事奉行え可談旨板倉周防守殿より御達有之  
候ニ付ては、心得方委細御指図承知被致度、此段及御問合候様  
役人共申候、

子三月

「下ケ」  
付札之面

御書面御問合之趣致承知候、 水戸殿於小梅下屋敷小錢吹  
立ニ付源兵衛堀築留際え取建ニ相成候物揚場地所之義ハ御  
作事奉行支配向え御代官佐々井半十郎手附手代共指出引渡  
夫より御引渡ニ相成候筋ニ付御引渡日限之義ハ御作事方え  
御問合有之候様存候、依之及御挨拶候、

子四月

御勘定所

杉原ニツ折  
一、

佐々木新吾

右之ものは願之趣も有之候ニ付、此度御勝手方御勘定所御用達  
申付、鑄錢御用向被 仰付候条、大崎由兵衛等申合御模通宜敷  
様相勤可申もの也、

但、冥加金三千両献納之儀願之通御取受相成候、

亥八月廿二日

小梅御屋敷え 公辺より出役之面々え左之通り被下、

(加筆)  
覚ニ  
御台所より  
役所え見合ニ  
指出候書付

吸物・肴式種  
壺汁三菜  
吸物なしにて  
右同断

御普請方下奉行  
壺人  
同改役  
壺人  
御普請方  
壺人

壺汁三菜  
酒肴壺種

八登豆ふ

右之通り

小梅鑄錢座物揚場地所明四日 公辺より御引渡ニ相成候ニ付て  
ハ、去亥八月大炮御鑄造物揚場地所引渡之節之通、御普請方下  
奉行等御踏込御座敷ニて御湯漬被下候間、別紙人数書之通、御  
湯漬等御手当同所え相廻候様、御台所掛吟味役え御達之事、

四月三日

大図人数左之通り

後普請方下奉行

壺人  
同改役  
御普請方  
壺人  
同肝煎  
壺人  
同同心  
壺人  
地割棟梁  
壺人  
御代官支配  
貳人  
右家来  
拾三人

同肝煎  
壺人  
同同心  
壺人  
地割棟梁  
壺人  
御代官支配  
壺人  
右家来  
拾三人

右之通

水戸殿  
御城付

岡部駿河守

水戸殿小梅村ニて小銭吹立ニ付、源兵衛堀揚場之義被 仰立候  
通相済候ニ付、明後四日四ツ時御普請方役々指出、右地所御引  
渡可申候間、傍所杭五本且杭認候硯・墨・筆用意請取之者印形  
持参、右場所え御指出可有之候、尤雨天延引之積此段申達候、

三月二日

|       |     |    |     |       |     |      |     |        |     |
|-------|-----|----|-----|-------|-----|------|-----|--------|-----|
| 御小姓頭取 | 御場守 | 坊主 | 御用人 | 御勘定奉行 | 同支配 | 御徒目付 | 下両役 | 御台所小役人 | 小間遣 |
| 式人    | 一人  | 三人 | 一人  | 一人    | 三人  | 式人   | 式人  | 一人     | 式人  |

右之通り

四月

\*(貼紙)

焼印



\*

(貼紙裏面)

|        |     |      |    |
|--------|-----|------|----|
| 御普請方手代 | 御大工 | 御抱中人 | 家来 |
| 一人     | 一人  | 式人   | 八人 |

常吉 弥嘉友 富弥  
吉藏 七藏 助七郎

伊七 真治 清三郎 林藏 恭次郎 嘉市郎 長兵衛 多三郎 伊兵衛 又吉 長吉 清藏 万助 新吉 安之助 八右衛門 源四郎 泰吉郎

水戸殿小梅村ニて小錢吹立ニ付、同所源兵衛堀え物揚場取建方被申立候通相濟候ニ付、右地所被成御渡之四方間數御絵図之面御定杭之通相違無御座請取申候、為後日仍如件、

元治元子年四月四日

水戸殿内  
倉部鋏作印

(加筆)  
覚二  
手形写面中ニ有、

御疊奉行格  
御普請方下奉行  
清水三郎右衛門殿

水戸殿於小梅下屋敷小錢吹立之義願相濟候ニ付ては、明和度吹立候節、錢裏文字有之候ニ付、此度江戸・水戸両座共ニ水戸之戸ノ字之積、片仮名ニてトノ文字鑄出候積ニ有之候、依之絵図面相添御勘定奉行え相違候間、此段及御達置候様被申付候、

子四月

四月四日

小梅鑄錢座物揚場地所引渡ニ付 公辺より出役面、左之通り、

御普請方改役勤方  
朝比奈三郎助殿

御普請方  
奥原久左衛門殿

御疊奉行格

御普請方下奉行

清水三郎右衛門

御普請方改役勤方

朝比奈三郎助

御普請方

奥原久左衛門

同同心肝煎役

荒井藏次郎

同同心

拾人  
御酒御肴御及物  
御湯漬被下候事  
御台所仕出

小梅鑄錢座物揚場地所引渡二付御出張之面、左之通り、

関川金次郎

地割棟梁

河合欽之助

中村甚左衛門

佐々井半十郎手附

鯰江鉞次郎

佐々井半十郎手附

飯嶋廣太郎

本所見廻役

中田五郎右衛門

原濑衛門

鴨志田傳五郎

加藤木賞三

津田藏吉

倉部鋏作

吉見喜代八郎

下役忝人

御普請方手代

忝人 大津

- 一、御用高張挑灯五張
- 一、同弓張挑灯五張
- 一、御繪府五本
- 一、御船印式本

御勝手方御用達

大崎由兵衛

津野四郎兵衛

古川嘉兵衛

金子左内

山本久作

兵衛門

御大工  
忝人  
御抱  
式人

御次坊主  
式人

表坊主  
忝人

小役人  
忝人

小間遣  
式人

御先手同心  
式人

御中間  
式人

右四行は由兵衛等五人え相渡候分、

錢之字合印付  
一、御用弓張挑灯式拾張

是ハ塙頭・割場頭・錢道頭等其外世話役之者え相渡候分、  
由兵衛等五人え四張ツ、相渡候分、

下ケ札之面

本文塙頭等出方之者え相渡候挑灯之義、由兵衛等五人え四張ツ、相渡候積ニ御座候得共、世話役之者等數十人有之候ニ付、万一御近火等之節駈付候ても目印無之候てハ指支候義ニ付、本文之通り相濟候様、尤右ニても不足之節ハ又々御焼印相願候積リニ御座候事、

右此度小梅鑄錢座御用達被 仰付、御用具御渡之義伺相濟候間、焼印相濟候様、御目附方え御断可被下候、以上

四月

御勘定奉行共

小梅御屋敷え鑄錢座御取建ニ相成候ニ付、源兵衛堀物揚場え勝示杭式本并鑄錢座表囲り左右え式本、都合四本新キ御建ニ相成候ニ付、同所大炮御鑄造所物揚場勝示杭ニ順シ御場所え建方迄取扱候様御入用金之義は御勝手方問合候様、此段御普請奉行中

え御達之事、

四月

四月十六日

御勘定奉行中え

錢座御用達共五人え相渡候御用具之儀ハ申出之通御目付方へ断相廻候条其旨相心得候、且又錢之字付御用弓張挑灯式十張之儀ハ御場所相調之上、塙頭等役割相撰、居所等儲成者ニ無之候てハ御用具類難相渡候間、旁其旨可被相心得候、

四月十九日

一、今日より鑄錢座ニて種錢吹初立候事、

子四月廿三日

御勘定奉行中え

小梅鑄錢場御普請取懸り候ニ付ては御成御門諸品入并職人等同所御門通行之義申出之通其筋え相達候条、其旨可被相心得候、

鑄錢御用達佐々木新吾献金之儀延引ニ付、追々催促致候処、別紙之通申出候間、此段申上候、以上、

四月廿八日

御勘定奉行共



以書付奉申上候

今般献金之儀二付、去ル十四日御呼出之上頃合日限之儀、以書面可奉申旨被 仰渡候二付暫時御猶豫之儀奉願上置候処、追々日数も相立候付、尚又昨廿六日御呼出之上、右日限書面以可申上旨被 仰渡奉畏候、然ル処先達て中金主の方え少々故障差入全以差支候儀二御座候間等閑置候儀二てハ決て無御座、誠ニ以奉恐入候得共、未献金日限之儀難申上次第二御座候、乍併故障無之金方之ものも御座候間、何れニも近日之内無相違献金日限可奉申上候間、此上奉恐入候得共、何卒以 御慈悲献金日限之儀今暫御猶豫被成下置候様偏ニ奉願上候、以上

四月廿七日

佐々木新吾

煩ニ付代

佐竹恭吉郎

奉願上候口上覚

一、昨年中より新銭御吹立御用之儀奉願上候、仰付不下置候二付、当年ニ相成大場大次郎殿・肥田新五左衛門殿方え内談仕、私名前相除キ町田昇平外咎人名前ニて御願申上候処、先々相願候五人之者共之内病氣ニて咎人御免相願候者御座候付、右え組合候て相願可申旨御差図二付、右五人之内大崎由兵衛方へ罷越及内談候所、御役人御声懸りを以参り候二付、私共方ヲ拒絶仕候儀は不申候得共、当二月已来種々雜費も相懸り候二付、右ヲ割合出金可申旨申聞候、尤相当之欠合ニ候ハ、出金之儀聊差支

候儀ハ無御座候得共、莫太之入用割合出金申掛候ハ躰能内心ニ拒絶可申哉之心底ニて、右様之取計申懸候義と愚察仕候、私共方ニてハ、炭・地金・普請職人・諸道具類等迄夫々心懸手当も御座候間、右之者共と組合不申、別段之廉ヲ以被 仰付被下置度奉願上候、尤一ト場所ニ付壹ケ年金千兩宛御冥加乍恐差上可申候、小梅御構内ニても駒込御屋敷内ニても御便利次第ニて、一ト場所御取極私共方え御引渡被下置度、尤沼地・野地等ニても差支無御座候間、前文之件々御賢察被下置、何卒別段ニ被仰付被下置度、此段偏奉願上候、以上

元治元年

子五月

阿部将翁

町田昇平

先々願人五人之もの共え組合相成兼候次第申立覚

一、昨年中より私共新銭御吹立御用之儀相願候義は於 御屋形様海防守備御警衛非常為御手当御軍艦御製造献上仕度、年来志願ニ御座候処、何分ニも大望之義ニ付手薄之私共自力ニ難及日夜心痛仕居候処、今般新銭御鑄立被為遊候由二付、何卒右御用被仰付被下置候ハ、御益上納仕候上ニて同士之もの共其外手代共ニ至迄日々精々相心懸積金仕、右備へニ仕度心願ニ付不願恐多再応相願候義ニ御座候、然ル処大崎由兵衛等ニ組合候ては、右志願相立不申、殊ニ手代共迄夫々身元金等取立多人数召抱候由、左候ては私共方えも夫々申込等有之候得共、右は御軍

艦製造方之儀專一二申論其上ニて弥以相勤度心底之もの共追々引合有之候得共、由兵衛等え組合候てハ是等之義も一人も召抱候義ニも難相成、殊ニ大崎由兵衛心底之儀は、右吹立方御用之儀は右五人之外為致間敷了簡と奉存候、其故は同人方え罷越、添願書差出し呉候様相頼候処、右五人仲ケ間加入いたし当定已来之雜費割合出金いたし候上ならでハ、添願書差出候儀不相成由申之候、右は添願差拒候儀は難相成候ニ付、仲ケ間加入と申加入致候ニハ莫太之加入金いたし候事故、何れニも艱能加入不相成候様取計候哉ニ奉存候、乍恐私共心得方之義ハ追々願人有之候得ハ、一ト<sup>(煙)</sup>爐ニ付、金五百両宛も御益上納仕候事故、拾人願有之候ハ、一ヶ年御益五千両上納ニ相成、御為筋ニも相成、世上小錢払底ニて外々之商人迷惑仕候者共迄、自然融通方ニ相成可申間、一人ニても多分ニ願人有之方可然義ニ奉存候処、五人之外願人拒絶仕候儀ハ甚以小量之至と奉存候、且五人之もの共議定書之内諸勘定メ縊り等五人之外不相成事と有之、私共方ニても旧冬中同志之もの共議定為取替仕候処、諸勘定メ縊り等之節ハ一同立合御役人中御出役之上明白ニ可致事ニ取極候、右様仕法相違仕候儀ニ付何卒私共方之儀ハ別段之思召ヲ以被 仰付被下置候様偏ニ奉願上候、以上

元治元年  
子五月

阿部将翁  
町田昇平

一、菰包大吹子式ツ  
一、菰包銅鉄三百箇  
右御国鑄錢座御用御舟積ニて御国え差下候間、中川・関宿証文相渡候様吟味方え御達候事、

六月

乍恐以書付奉願上候

一、御屋形様鑄錢御吹立 御用願之通被為仰付冥加至極難有仕合奉存候、然ル処山本義同様被為 仰付御座候処、御場所普請追々出来ニ相成候得共、最初より今日迄一日も出勤不仕、且は世間ニて如何之風聞等も有之、右様之者私共同勤仕候ては迷惑之仕義ニも至り可申哉、更ニ安心不仕候間、何卒格別之以 御慈悲同勤之義 御免被 仰付被下置候様偏ニ奉願上候、以上

元治元甲子年五月

御掛り  
御役人衆中様

金子左内  
津田四郎兵衛  
大崎由兵衛

鑄錢  
御用達  
山本久作

右之者鑄錢御用達大崎由兵衛等五人之内組合之者ニ御座候処、仲間申合等熟和不仕、尚亦市中風聞不宜ものえ由相聞候間、此節御用達 御免之義相達申候、此段申上候、以上

六月 十九日筋え出ス

御勘定奉行共

子六月十九日

一、山本久作呼出候処、不快ニ付名代小林源次郎<sup>(と)</sup>申者罷出候付、是迄御場所え不罷出不心得ニ付御用達御免ニ致候旨、口上ヲ以相達候事、

但、大崎由兵衛も同様出座致候様相達候処、不快ニ付

名代差出候事、

子五月四日閣老板倉周防守殿え興津藏人殿・中山与三左衛門殿持参ニて御進達書左之通

水戸殿勝手向從來不如意ニ付、主法相立鑄錢之儀被相願候処、小錢吹立為御済相成忝次第被奉存候、尤先年と違諸品等高価之折柄ニ付小錢ニてハ何分勝手之多足ニも不相成候得は、何共自由ケ間敷被憚入候得共、去亥春上京被致候節、六万両内百文錢ニて三万両并同冬川浚入費ニ付百文錢ニて壹万両合て七万両上納被致度、左候得は返納方等運合も付、如何計安堵被致候事ニ付、前件内情をも御汲察之上、宜敷御沙汰被成下候様被相願候、此段申上候様被申付候、

子五月

子七月十六日

水戸殿勝手向從來不如意ニ付、主法相立申度鑄錢之儀被相願候処、小錢吹立為御済相成忝仕合被奉存候、然ル処先年と違諸品格外ニ高価之折柄ニ付、小錢ニては何分勝手向之補方ニ不相成候へハ、委細は当五月中被相願候通り、当百錢吹立ニ御振替相濟候様被仕度、尤百錢之儀は容易ニ御済難相成義は兼て承知被致居候事ニ付、去春上京之節拝借金之内四万両分百文錢ニて御渡方ニ相成候間、此上納丈之分百文錢吹立申度、左候得は返納方運合も付候様被致度、若百錢之儀は御故障も被為在候ハ、兼て被相願置候五十文錢并廿四文錢新規吹立之義年限を以御許容被成下候様被致度、毎度彼是と被相願被憚入候得共、追々臨時入費相嵩、必至と被差支候間、一廉之補方仕法相立申度候間、前件内情ヲも御汲察之上宜御沙汰被成下候様被相願候、此段申上候様被申付候、

子七月

子四月六日於御国  
御勘定奉行中え

一、

右は此度湊村龍ノ口鑄錢座御用達申付、格別之儀を以御扶持方拾五人分被下置候条出精可相勤もの也、

岡田平作

岡田平作鑄錢座御用達被　仰付、御扶持方拾五人分被下置候  
處、右之内拾人分暫之内御借上相成候条其旨相心得御扶持代鑄  
錢御益金之内より年々返納可被取扱事、

—

右は此度湊村龍ノ口鑄錢座御用向被  
仰付格別之儀ヲ以御扶持  
方三人分被下置もの也、  
右之通御国より申来候事、

御国湊村龍ノ口鑄錢座御用達岡田平作等、御扶持方於御国被下置候処、何れも爰元住居之者ニ付、此表ニテ渡方取計候様御国同役共より申来候処、御扶持代之儀は鑄錢御益金之内より年々為指登候旨申来候間、別紙之通吟味役へ御達罷成候様仕度奉存候、此段申上候、以上

御勘定奉行共

吟味役中之

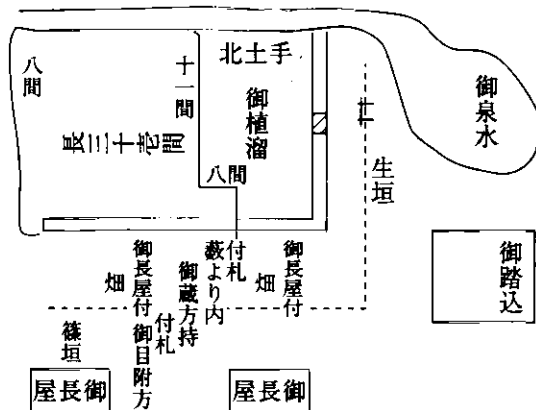
岡田平作義御国龍ノ口鑄錢座御用達被 仰付、当四月六日於御  
国御扶持方拾<sup>(五)</sup>人分被下置候処、右之内拾人分暫之内御借上相  
成候条其旨相心得、此表ニテ渡方取扱御扶持代鑄錢御益金之内  
より年々返納相成候条、宜被取扱事、

中田甚七義御国龍ノ口鑄錢座御用向被仰付、伺之上当四月十二日於御国御扶持方三人分被下候条、其旨相心得、此表二て渡方取扱御扶持代鑄錢御益金之内より年々返納相成候条宜被取扱事、

一、阿部將翁扱鑄錢座断

此度小梅御屋敷御鷹場内ニテ御渡相成候新鑄錢場之儀、最寄  
ニテ弁利も宜候間、諸品都て運送之分御船入より河岸揚為致  
(虫損)  
候□同所御目付方并ニ御藏奉行中へ兼て御達ニ相成候様致  
度、此段申出候、以上

掛り御小姓頭取共へ



本文朱引之通往來新道出來候二付掛紙之通地所引渡候様、御目付方并御藏方へ御達之事、

乍恐以書付奉歎願候

子十月十七日濟口達ス

一、去ル四月中鑄錢御吹立方 御用被 仰付、冥加至極難有仕合奉存候、直様引続取懸 御用相勤可申筈ニ御座候処、持病差重り其俣打過置候段、誠ニ以奉恐入候、且追々病氣全快仕候儀ニ付、右御用ニ取懸候様被 仰付被成下置候ハ、金主よりも睨と御受為仕、是迄大崎由兵衛外式人ニて御場所土行并御囲等出来仕候儀ニ付、右出金之儀は被 仰付候坪割を以 御役所様え奉納夫より直様普請ニ取懸無差支吹立方相始め候様急度仕候、且又兼て奉願上置候献金上納之儀も度々御日延奉願上、厚き思召を以御勘弁被成下置重疊難有仕合奉存候、右御用被 仰付候上は吹立方ニ不取懸前ニ取急手配仕、乍恐献金之内金千両奉納候儀、聊相違無御座候、殘金貳千両之儀は、其節日限相定奉申上候、尤金子調達方之儀は野州表ニおゐて大材伐出シ之儀も御座候付、右え取懸候ハ、金調も出キ仕、右金を以奉納候儀に付、毛頭相違之儀は無御座候間、何卒格別之以 御慈悲右両様共御聞濟被成下置候様御取扱之程、偏ニ奉願上候、以上

子十月十六日

佐々木新吾

御勘定所

御役人中様

乍恐以別紙奉申上候

一、本紙奉願上候通、聊相違無御座候、万一一ト廉ニても相違之儀御座候節、直様御暇被 仰付候儀は勿論、何様之御察度被 仰付候共、一言之御恨不奉申上、万二一奉申上候趣意ニ振れ不都合之儀御座候節は兼て御場所丹誠仕罷在候金子左内儀素より正路明白之者ニ御座候由、殊ニ多分之出金等も有之旨粗承知罷在候間、右左内方え金主并仕手方普請諸道具ニ至る迄其俣相譲り無差支御成功相成候様仕置退身仕可申儀ニ御座候間、何卒奉願上候通 御許容ニ相成候様御取扱之程偏ニ奉願上候、以上

子十月十六日

佐々木新吾

御勘定所

御役人中様

乍恐以書付奉願上候

一、今般於 御屋形様鑄錢御吹立方被遊候ニ付、右鑄立方御用被 仰付被下置候様、佐々木新吾より奉願上候、就ては右金主之儀未熟之者ニ御座候へ共、私相勤申度候ニ付、諸入用向并仕手方取調等之儀は未タ行届兼候ニ付、猶又可奉願上候へ共、右対談相済金方仕候義相違無御座候間、何卒以 御慈悲右願之通被 仰付被成下置候様奉願上候、以上

元治元子年十月十六日

鈴木清吉

御勘定所

御役人中様

覚

一、櫓矢来板塀

平均壹坪二付

代四拾五匁ツ、

一、地理平均

奥行拾間  
間口六十八間

壹坪二付

代拾匁ツ、

一、同高下平均草木切取・  
根ほり出し共并置土手間

平均

間口六十八間  
奥行拾貳間

代四匁ツ、

一、物揚場取立

川浚入用とも

代金拾兩ツ、

右之通御座候、以上

子十月

御懸

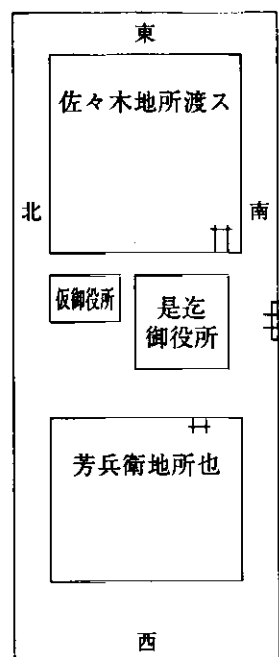
御役人衆中様

大崎由兵衛  
津野四郎兵衛  
金子左内  
代清兵衛

十月廿二日

一、鑄錢場地所之内絵図面之通、乾又八郎・山田栄八郎出役之  
上、地所引渡候事、

一、小梅鑄錢座御普請今三日より取懸候旨、佐々木新吾より申出  
候事、



乍恐以書付奉願上候

一、今般鑄錢方 御用被 仰付冥加至極難有仕合奉存候、然ル処  
御渡ニ相成候御地所・櫓矢来其外坪割ヲ以代金奉上納度旨奉願  
上候処、昨二日金主老母より今三日迄之御日延奉願上呉候様達  
ニて頼二付、不得止事其旨渡邊様迄奉願置候処、今日二至り尚  
又金子差支之趣申越今日奉上納候儀難相成重々奉恐入候、是迄  
自俣勝手のみ奉願上候筋ニ相当り候間、如何様奉蒙御咎候共、  
一言之儀無御座次第奉恐入候、依之此上奉願上候儀奉恐入候得  
共何卒以 御慈悲私儀御出入 御免被 仰付被下置候様御取扱  
之程偏奉願上候、以上

十一月三日

佐々木新吾

御勘定所

御役人中様

(後筆)  
〔右丑四月廿四日願通免許申付候事、〕

(ママ)  
以恐以書付奉歎願候

一、今般佐々木新吾え鑄錢吹立方被 仰付金方之儀は鈴木清吉え被 仰付候付、早速御場所御普請ニ取懸可申処、清吉方にて差支之儀有之候付、於新吾場合対 御屋形様え申上様も無御座奉恐入候、無余儀御出入 御免之儀奉願上候処、願書御受取被置於私共も奉恐入候儀ニ奉存候、然ル処金主清吉儀昨六日より俄ニ持病差発、如何ニも難手放様牀ニ付暫時御猶豫之儀奉願度旨清吉より申出候間、其旨新吾え申談候処、同人義は最早 御出入 御免願書差上置候付恐入、右 御沙汰のみ奉待罷在候儀ニ御座候旨申聞、私共申条取揚不申次第ニ御座候、然ル処新吾始私共一同是迄丹精仕昨今ニ至り 御成功不仕候てハ奉対 御屋形様誠ニ以奉恐入、私共ニおゐても残念至極ニ奉存候間、何卒以 御慈悲此上暫時御猶与被成下置候様奉願上候、尤職方共へ注文も申付夫々手配も仕置候付、是迄之諸入用費ニ仕候も心外之儀ニ奉存候間、新吾より奉差上候願意之趣は何卒以 御慈悲其俣御受取被置、暫時御猶与被成下置候様、御取扱之程偏ニ奉願上候、以上

子十一月七日

南条又兵衛

川口清兵衛

加藤隊三

黒田壯三郎

牧野弥兵衛

御勘定所  
御役人中様

(後筆)  
右願書差出置、其後何等申出無之付丑四月廿四日新吾御用達御免申付、此願書ハ差戻候事、

小梅鑄錢座御普請中絶致居候処、明三日より御普請取懸り申候間、諸品入并職人等裏御門通用之儀、当四月中申出候通、通用為致候間御心得候、此段申出候、以上

十一月二日

御目付様中

御勘定奉行共

林源次郎

佐竹恭吉郎

羽田閑造

元治二丑年

水戸殿勝手向從來不如意之折柄、去夏已来之国難ニ付無拋拝借金奉願候処、於公辺御用途多之御砌ニ付願之筋は難相整候得共、格別之思召を以御膝元より三千両被下置候段誠ニ以厚忝次第ニ被奉存候、畢竟夫彼を以昨暮迄之処ハ補置候得共、將ニ賊徒追討之儀ニ付ては領内一般ニ疲弊いたし候付、右救助方等此上之補方手段無之必至と差支、水戸殿ニも深く痛心被致候、尤御用途多之御砌、再三御助成奉願候も被憚入候ニ付ては、当今難場為凌国元銅山より之出銅を以札同様之百錢形出来、尤世上通用当百錢ニ不紛様難形之通目印打吹立全く領内ニ限り通用為致候ハ、他之引張無之、且自然凌方も付可申歟、外ニ手段も無之当惑被致候付無余義吹方為取懸候積ニ御座候、勿論当座凌方付候迄之儀ニも御座候間、前件急場難渋之廉幾重ニも御汲察被下置、暫時之間御聞置ニ相成候様被致度、此段御含旁及御達候様被申付候、

丑正月

十日筋へ内談出ス

表 木形



裏



覚

〔刷印〕  
種錢壹万枚

但箱式ツ入

〔加筆〕  
内五千枚箱式ツ入

丑三月 日、四郎兵衛代伊三郎等え渡ス、

右之通受取申候、以上

元治二丑年三月九日

御勝手方

津野へ渡

大崎由兵衛方

津野四郎兵衛方

金子左内方

〔後筆〕

五月十七日達ス、  
当人旅行ニ付名代ニて達ス、

佐々木新吾

右之もの小梅鑄錢御用達申付置候処、行届兼候由ニて願之趣も有之候付、此度右御用達 免許申付候事、

〔加筆〕

〔右四半切え認、四月廿四日呼出相達ス〕



四月廿三日

一、小梅鑄錢場御普請追々相後れ候付、此節金主出来候付取懸度津野四郎兵衛より願出、尤金主高橋垣藏儀も御用達相願度申出候処、此節柄にて御用達之儀ハ相濟難候間、金主之儀ハ承り置候旨、四郎兵衛・垣藏<sup>(垣)</sup>え相達候事、

以書付御届申上候

小梅鑄錢普請之儀、段々延引仕居候処、金法差加人も出来仕候二付、来ル廿六七日兩日之内取懸り候様仕度、此段御届申上候、以上

丑四月

津野四郎兵衛印

御懸り

御役人衆中様

以書付申上候

小梅鑄錢場手入仕度、佐々木新吾御渡シ之場所一緒二手入仕度、右場所御引渡可被成下奉願候、已上、

丑四月

津野四郎兵衛

御懸り

御役人衆中様

(後筆)

\*

小梅御屋敷え鑄錢座御取建之儀役所え為御任ニ相成、昨年中普請取懸り候処、去八月中風損にて大破相成候得共、請負人共差合等にて其俣相成居候処、此節より破損所等普請取懸り度旨申出候間、此段申上候、以上

四月廿四日

御勘定奉行共

(加筆)

(右筋へ出ス、包紙にて出ス、)

右同文言、此節より破損所等普請取懸り度旨申出候付、筋えも申出候間御心得申出候、以上

四月廿四日

御勘定奉行共

御目付様中

(加筆)

(右包紙なし、御目付方へ出ス、)

(後筆)(虫損)(月カ)

\* 五〇四日鑄錢座取建高声不致、穩便ニ普請致候様御側御用人衆より御達

ニ相成候事、